

【第4回 AST 講習会：総合討論に関する Q&A】

2023 年 11 月 29 日（水）17：00～20：00

Web 開催

質問：

基本的なところかと思いますが、抗菌薬使用状況の推移をみるうえで AUD、DOT、AUD/DOT のどれを用いるのがよいのでしょうか？それぞれの特徴をご教示いただけますでしょうか。

回答：

AUD、DOT、AUD/DOT には、各々のメリット、デメリットがあるため、一概にどれを用いるのが良いかは断定できませんので、各ご施設の状況と合わせてご検討ください。

AUD、DOT、AUD/DOT についてと、各々のメリット、デメリットを下記に示します。

AUD：各抗菌薬の総使用量に基づく評価方法

DOT：1 日使用量にかかわらず、抗菌薬の使用期間に基づく評価

AUD/DOT：各抗菌薬の DDD が成人の標準的な維持投与量とほぼ等しく設定されている
抗菌薬では AUD/DOT の理想値は 1 と考えられる

	メリット	デメリット
AUD	<ul style="list-style-type: none">・他施設や国家間の抗菌薬使用量の比較が容易・算出に必要な情報が総グラム数のみであるため、集計が容易である・患者レベルの情報が必要ない	<ul style="list-style-type: none">・各薬剤の DDD がわが国の実際の投与量と乖離している場合には、異なる系統間の使用量比較はできない・総使用量の評価であるため、適正な増加か否かの判定が困難である・小児の集計に不向きである・腎機能低下症例では過小評価となる
DOT	<ul style="list-style-type: none">・WHO の DDD 規定値の変化、DDD 規定値と実際の投与量との乖離に影響されない・小児の集計にも利用できる・1 日用量を加味しない集計法であるため、適正な増加か否かの判定ができる	<ul style="list-style-type: none">・1 日用量を加味しないため、1 日用量の適切性を評価できない・投与された日のみカウントするため、投与期間とは異なる・各症例の投与データが必要であるため、集計が煩雑である（J-SIPHE 非参加施設に限る）
AUD/DOT	<ul style="list-style-type: none">・1 日用量の指標として利用できる	<ul style="list-style-type: none">・WHO の DDD が 1 日用量と乖離している場合、評価が困難である

※DDD：WHO が薬剤毎に設定している成人（体重 70kg）の中等度の感染症における 1 日仮想平均維持量のこと世界共通の値

参考文献

- ・（総説）中村ら他. 薬剤の使用動向の指標を用いて薬剤師がすべき薬剤耐性菌対策. 日本化学療法学会雑誌 68 (1): 125-131, 2020
- ・感染症教育コンソーシアム/抗菌薬使用量集計マニュアル作成チーム 編, 抗菌薬使用量集計マニュアル (Ver1.1) https://amr.ncgm.go.jp/pdf/koukin_manual.pdf (2023/11/30 利用)